

第374施設中隊とシュナイダーエレクトリック、中高生に発電所ツアーを実施 374th CES and Schneider Electric host power plant tour for future generations

April 3, 2023

By Machiko Arita
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で3月23日、第374施設中隊と米国の契約業者シュナイダーエレクトリック社が、中高生の希望者とその保護者に熱電併給システム(CHP)プラントについて理解を深めてもらうためのツアーを行った。

シュナイダーエレクトリック社のエネルギーマネージャーであるニック・ケートン氏は、「新しい発電所が完成間近の稼働最終試験段階に近づいてる中、実際に見て体験してもらうのは、滅多にない特別な機会だった」と述べた。

このCHPプラントは、省エネパフォーマンス契約(ESPC)の一つとして、2020年に本格的に施工が始まった。ESPCプロジェクトは、連邦政府機関とエネルギーサービス会社のパートナーシップを拡大するもので、政府からの初期資本支出なしで、省エネ、レジリエンス強化、基地の近代化をもたらすものだ。

CHPIは、発電の過程で発生する熱を回収し活用する、効率的なシステムを実現する。

ケートン氏は、「CHPプラントは、基地に信頼性の高い、クリーンで効率的な電気と蒸気を供給する。そして、横田基地が新たに導入するスマート・マイクログリッドによる自家発電と制御により、日本の電力網の負担を大幅に軽減する。こうしたエネルギー消費と電力網への需要の削減は、電力需給が最もひっ迫する夏の使用ピーク時に特に重要となる」と語った。

CHPプラントがフル稼働し、持続的かつ安定した運転ができることが確認され次第、このESPCのプロジェクトは年内にも完成する予定だ。

ケートン氏は、「今回のCHPプラントのツアーは、スマートで持続可能なエネルギーとそれに必要な技術の重要性を次世代に伝え、気づきを引き出すとても有意義なものだった」「この経験によって生徒たちが将来、科学、技術、工学、数学の分野や業界に関心を持ち、願わくば未来のリーダーとして一翼を担ってくれることを期待している」とコメントした。

